



**ADVANTEST**<sup>®</sup>

# 2020年度（2021年3月期） 第2四半期決算説明会

2020年10月29日  
株式会社アドバンテスト

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

# ご注意

---

## 会計基準について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている実績や見通し数値は、国際会計基準（IFRS）に基づいて作成しています。

## 将来の事象に係る記述に関する注意

- 本プレゼンテーション資料およびアドバンテスト代表者が口頭にて提供する情報には、将来の事象についての、当社の現時点における期待、見積りおよび予測に基づく記述が含まれております。これらの将来の事象に係る記述は、当社における実際の財務状況や活動状況が、当該将来の事象に係る記述によって明示されているものまたは暗示されているものと重要な差異を生じるかもしれないという既知および未知のリスク、不確実性その他の要因が内包されており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

## 本資料の利用について

- 本プレゼンテーション資料に記載されている情報は、各国の著作権法、特許法、商標法、意匠法等の知的財産権法その他の法律及び各種条約で保護されています。事前に当社の文書による承諾を得ない限り、法律によって明示的に認められる範囲を超えて、これらの情報を使用（改変、複製、転用等）することを禁止します。



```
operation == "MIRROR_X":
    mirror_mod.use_x = True
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = False
    operation == "MIRROR_Y":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = True
    mirror_mod.use_z = False
    operation == "MIRROR_Z":
    mirror_mod.use_x = False
    mirror_mod.use_y = False
    mirror_mod.use_z = True

selection at the end -add
obj.select= 1
obj.select= 1
context.scene.objects.active
obj.select= 1
obj.select= 1
```

## 2020年度第2四半期決算報告

取締役 兼 常務執行役員 藤田 敦司

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 四半期業績推移

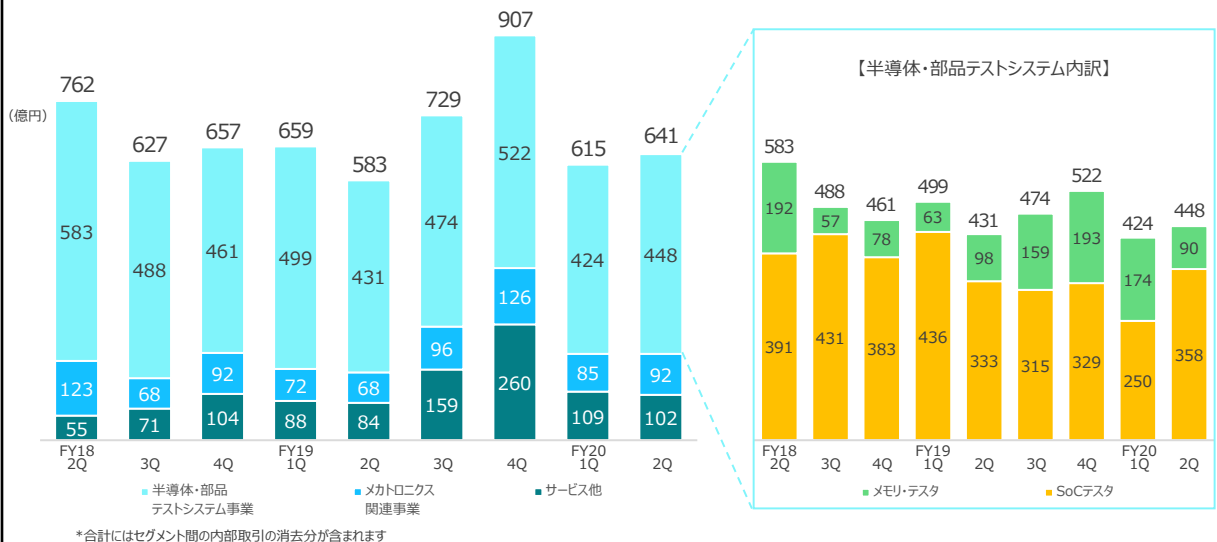
(億円)

	FY19				FY20						
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q		前期比		前年同期比	
						予想	実績	増減額	増減率	増減額	増減率
受注高	659	583	729	907	615	555	641	+27	+4.4%	+59	+10.0%
売上高	662	716	699	682	667	733	774	+107	+16.0%	+58	+8.1%
売上総利益	394	410	394	367	380	-	416	+37	+9.8%	+7	+1.6%
売上総利益率	59.5%	57.3%	56.4%	53.8%	56.9%	-	53.9%	-3.0pts		-3.4pts	
営業利益	152	177	142	116	135	142	174	+40	+29.9%	-2	-1.3%
営業利益率	22.9%	24.8%	20.4%	17.0%	20.2%	19.4%	22.6%	+2.4pts		-2.2pts	
税引前四半期利益	149	184	145	108	129	142	164	+35	+27.4%	-19	-10.4%
四半期利益	121	147	119	148	106	113	139	+34	+32.1%	-7	-5.1%
四半期利益率	18.3%	20.5%	17.1%	21.7%	15.8%	15.5%	18.0%	+2.2pts		-2.5pts	
M&Aに伴う受注残の増加				+42							
受注残	746	613	643	910	857	680	725	-132	-15.4%	+112	+18.3%
為替レート	1米ドル 1ユーロ	111円 125円	108円 121円	108円 119円	110円 121円	108円 118円	105円 120円	107円 123円	1円 円高 5円 円安	1円 円高 2円 円安	

### ○ 2020年度第2四半期の業績概要

- ・ 新型コロナウイルスがある中で、当社ビジネスを支えてくださる取引先各位、関係各位から頂いたご尽力と従業員の努力に深謝いたします。
- ・ 3か月前の業績予想を振り返りますと、米中对立の先鋭化と新型コロナウイルスの影響を踏まえ、2Q受注は1Q比で減少すると見込んでいました。
- ・ しかしながら、SoCテストの引き合いが想定以上に強く、2Q受注は1Qを上回る結果となりました。
- ・ 前期比では、売上・利益も想定以上に進捗でき、どちらも1Qを超える数字を収めることができました。
- ・ 前年同期比では、売上総利益率の良い製品群の割合が減少したこと、為替差損の影響により、増収減益となりました。
- ・ 受注、売上、利益の詳細は、次以降のスライドで順次ご説明いたします。

## 四半期受注高 事業セグメント別



○ 2020年度第2四半期の事業別受注高

○ 半導体・部品テストシステム事業

- 前期比 5.6%増 448億円

- SoCテストは358億円と、前期比108億円の増加となりました。米中対立の余波を受けた在庫積み増し需要に加え、中国スマートフォン大手が占めていたポジションをめぐる動きが活発であったことから、アプリケーション・プロセッサ (APU)、イメージ・センサー(CIS)やディスプレイ・ドライバIC(DDI)等の引き合いが想定以上に増加しました。ハイ・パフォーマンス・コンピューティング (HPC) 関連のテスト需要も堅調でした。

- メモリ・テストはCY20上期に強かったサーバー向け受注が一服し、前期比では85億円の減少となりました。

○ メカトロニクス関連事業

- 前期比 7.7%増 92億円

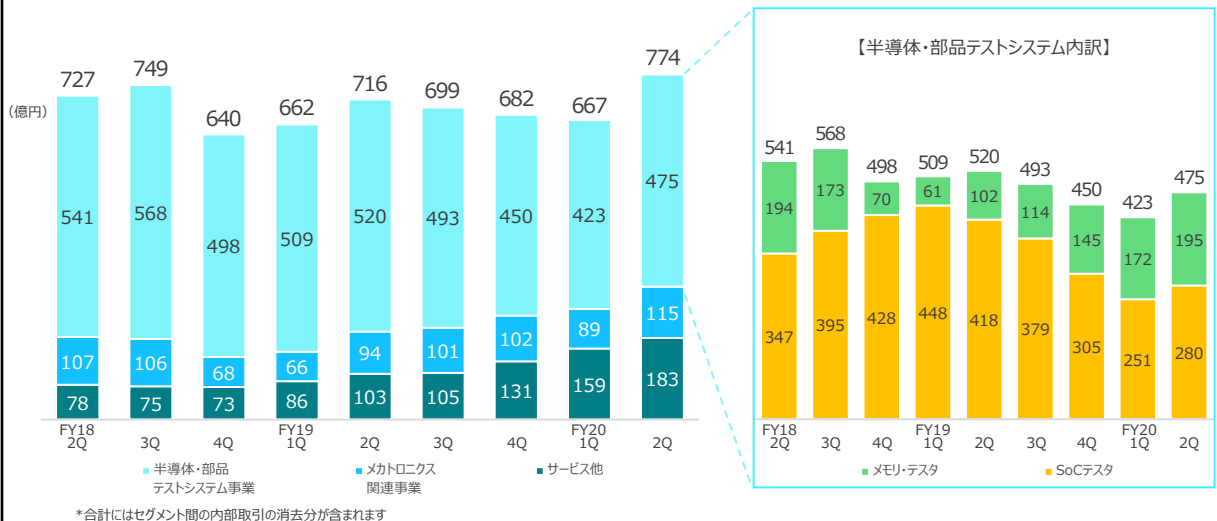
- EUV関連でナノテクノロジー製品の受注が増加しました。

○ サービス他

- 前期比 6.0%減 102億円

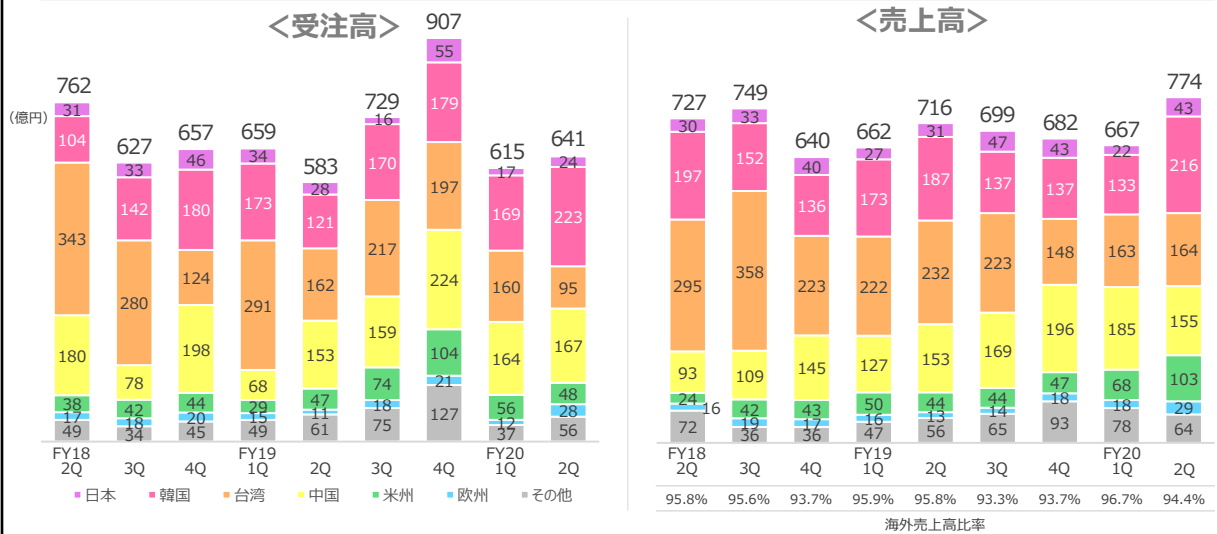
- 年間保守契約更新の季節性の減少をシステムレベル・テスト関連の受注増で補い、前期並みの受注となりました。

## 四半期売上高 事業セグメント別



- 2020年度第2四半期の事業別売上高
- 半導体・部品テストシステム事業
  - ・ 前期比 12.4%増 475億円
  - ・ SoCテストは、スマートフォン関連の売上が増加しました。
  - ・ メモリ・テストはDRAM、フラッシュ・メモリともに売上が伸びています。
- メカトロニクス関連事業
  - ・ 前期比 29.5%増 115億円
  - ・ メカトロニクス事業全般で売上が増加しました。
- サービス他
  - ・ 前期比 15.4%増 183億円
  - ・ SoC向けのシステムレベル・テスト製品の販売が堅調でした。

## 四半期受注高/売上高 地域(出荷先)別



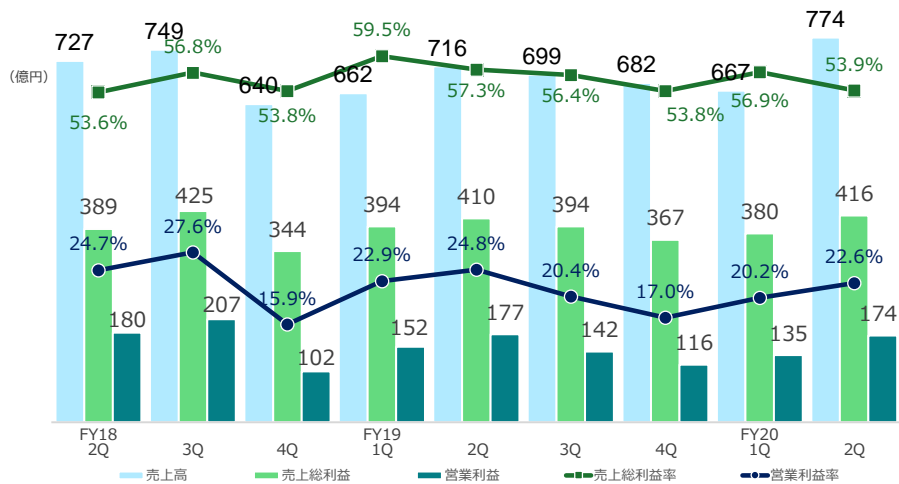
### ○ 2020年度第2四半期の地域別受注高

- 韓国  
スマートフォン関連の受注が伸長しました。
- 台湾  
米中対立に端を発した、OSATのテストキャパシティ調整の影響を受け、受注が減少しました。

### ○ 2020年度第2四半期の地域別売上高

- 韓国  
SoCテストのスマートフォン向けでの増収に加え、メモリ・テストも前期の高水準な受注を背景に売上を伸ばしました。
- 米州  
システムレベル・テストの売上が増加しました。

## 売上高/売上総利益/営業利益



### ○ 2020年度第2四半期の営業利益

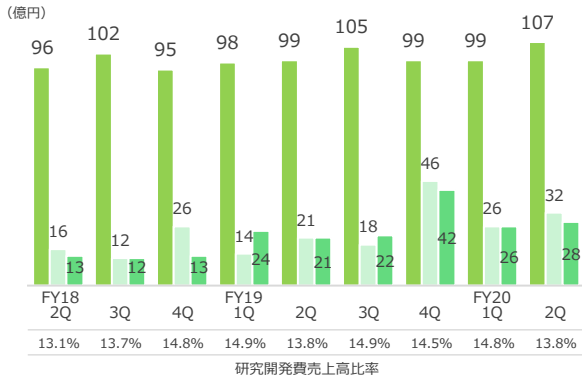
- 売上総利益率 53.9%  
製品ミックス変動により、前期比で低下しました。
- 販管費（およびその他収益、費用を合算） 242億円
- 営業利益 174億円
- 営業利益率 22.6%
- 2Qの営業利益にはプローブ・カード事業の譲渡に伴う譲渡益約25億円が含まれています。



# 投資等/キャッシュ・フロー

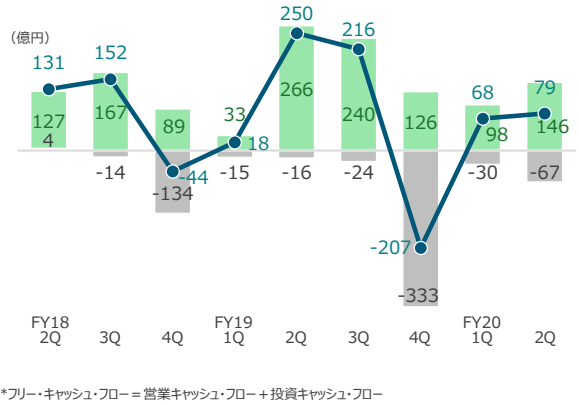
## <投資等>

- 研究開発費
- 設備投資
- 減価償却費



## <キャッシュ・フロー>

- 営業キャッシュ・フロー
- 投資キャッシュ・フロー
- フリー・キャッシュ・フロー



○ 2020年度第2四半期の研究開発費等

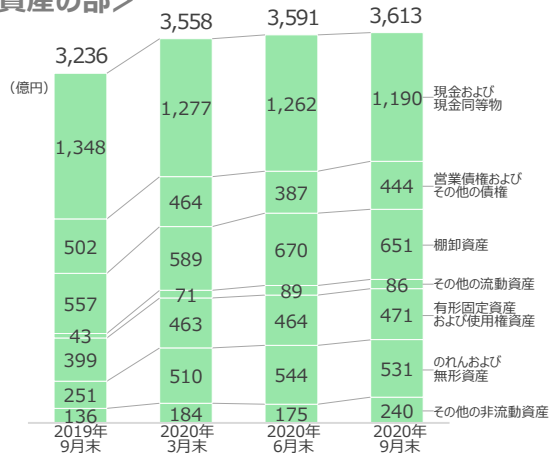
- ・ 研究開発費 107億円
- ・ 研究開発費売上高比率 13.8%
- ・ 設備投資 32億円
- ・ 減価償却費 28億円

○ 2020年度第2四半期のキャッシュ・フローの状況

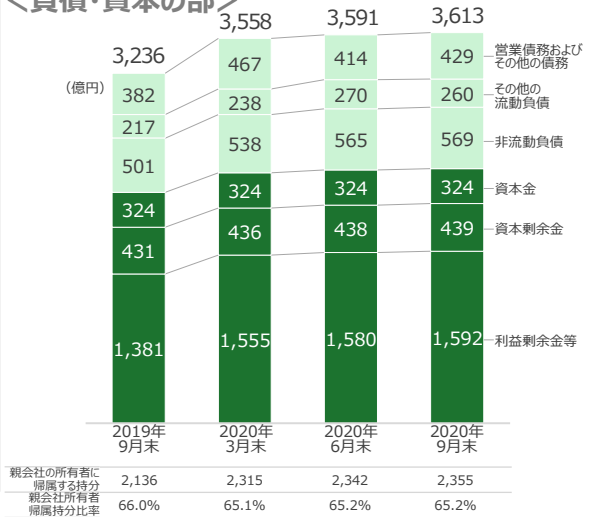
- ・ フリー・キャッシュ・フロー 79億円
- ・ 7月に公表したPDF Solutions社への資本参加により、投資キャッシュ・フロー支出が増加しました。

# 連結財政状態

## <資産の部>



## <負債・資本の部>



### ○ 2020年9月末時点のバランス・シート

- 総資産 3,613億円
- 現金および現金同等物 前期末比71億円減 1,190億円
- 親会社の所有者に帰属する持分 2,355億円
- 親会社所有者帰属持分比率 前期末と同じ 65.2%
- 9月末までに取得した自己株式は109億円、209万株です。上限250万株に対しての進捗は約80%です。



# 2020年度事業見通し

代表取締役 兼 執行役員社長 吉田 芳明

All Rights Reserved - ADVANTEST CORPORATION

**ADVANTEST**<sup>®</sup>

## 半導体テスト市場の動向 <20年10月時点の見方>

### CY20予想

-SoCテスト市場: CY20市場規模を約\$2,700Mに引き上げ

- 先端プロセス品のテスト需要が想定以上に強く推移。HPC/AI向け半導体および、アプリケーション・プロセッサ、イメージセンサー、ディスプレイ・ドライバーICなどスマートフォン関連の半導体のテスト投資が拡大
- 米国の中国企業規制強化に端を発したOSATのテスト余剰については、CY20年末までには峠を越える可能性が上昇。他サプライチェーンへの能力転用が積極的に進んでいることに加え、21年以降の先端プロセス品のテスト需要の伸びへの期待が加わる

-メモリ・テスト市場: 前回7月予想から市場規模推定に変更なし

- 暦年上期はデータセンター投資の活況を背景に、DRAM、不揮発性メモリとも、想定以上にテスト投資が進展。暦年下期は一服を見込むも、メモリの大容量化・高速化進展に伴う今後の市場拡大を期待

	CY17実績	CY18実績	CY19実績	CY20推定
SoCテスト市場	約\$2,200M	約\$2,550M	約\$2,700M	約\$2,700M (7月時点推定: 「約\$2,400M」)
メモリ・テスト市場	約\$750M	約\$1,150M	約\$650M	約\$1,000M (7月時点推定: 「約\$1,000M」)

### ○ 暦年2020年のテスト市場の見方

- 米国による中国企業向けの規制強化に伴うSoCテスト需要の弱含みを、当社は3か月前に予想しました。
- その後の展開は予想通りで、OSATではテストキャパシティの調整を優先しています。
- ただ米中対立の余波として、在庫積み増し需要に加え、中国スマートフォン大手が占めていたポジションをめぐる動きが生じています。これがスマートフォン関連需要を喚起し、APUやCIS、DDI用テストの需要を思っていた以上に押し上げています。
- 業界内で新たなサプライチェーン構築が進展する中、当社の広い顧客基盤と、多様なSoCテストの製品ポートフォリオが奏功し、増産に向かう顧客からの追加需要を掬い上げることができました。これにより中国大手スマートフォン向けのSoCテストの落ち込みをカバーしています。
- 加えて、HPC関連の堅調な需要が継続していることで、OSATの余剰設備の解消は、CY20年末までには峠を越える可能性が高まりました。
- SoCテスト市場は、これら市場の変化を反映し、CY20の見通しを約\$2,700Mに引き上げます。顧客ミックスの関係で、マーケットシェアは前年比では減少するものの、CY21に向けた市場規模拡大のシナリオに手応えを感じています。
- メモリ・テストの方は、7月に想定した通り、データセンター関連投資のメモリ需要は短期的に落ち着きそうですが、こちらも21年に起こるDRAM微細化、3D NANDの層数増という、テスト市場の成長ドライバーへの期待が継続しています。

## FY20業績予想

	FY19		FY20				(参考)新旧予想比較	
	実績	上期実績	下期予想	通期予想	前年度比 増減額	増減率	7月時点 FY20予想	修正額
受注高	2,878	1,256	1,344	2,600	-278	-9.7%	2,400	+200
売上高	2,759	1,441	1,309	2,750	-9	-0.3%	2,600	+150
営業利益	587	309	216	525	-62	-10.6%	450	+75
営業利益率	21.3%	21.5%	16.5%	19.1%	-2.2pts		17.3%	+1.8pts
税引前利益	586	293	216	509	-77	-13.1%	444	+65
当期利益	535	245	180	425	-110	-20.6%	358	+67
当期利益率	19.4%	17.0%	13.8%	15.5%	-3.9pts		13.8%	+1.7pts
受注残	910	725	760	760	-150	-16.5%	710	+50
研究開発費	401	206	204	410	+9	+2.2%	410	-
設備投資	99	58	62	120	+21	+21.2%	100	+20
減価償却費	109	54	56	110	+1	+0.9%	110	-
為替レート	1米ドル	109円	107円	105円	106円	3円 円高	106円	-
	1ユーロ	121円	120円	120円	120円	1円 円高	119円	1円 円安

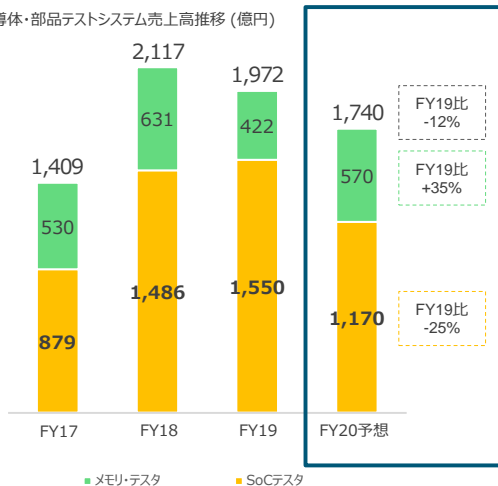
為替レート変動が当社のFY20営業利益に与える影響の最新見通しは、対米ドルが1円安時+6億円です。対ユーロは-1.5億円です。

### ○ 2020年度の業績予想

- 2Q実績を踏まえ、通期予想を、受注高2,600億円、売上高2,750億円、営業利益525億円、税引前利益509億円、当期利益425億円に引き上げます。
- 予想の前提とした為替レートは、下期は米ドル105円、ユーロが120円です。通期では米ドル106円、ユーロが120円です。
- 売上総利益率は前年度実績56.7%から、54%程度に悪化する見通しです。営業利益率も前年度比で下がる方向で見えています。
- 製品ミックスの影響に加え、研究開発投資と顧客サポート体制の強化を継続するためです。テスト需要の牽引役である半導体高性能化と連動した、テスト強化・高度化に備えるために必要な先行投資と考えています。

## FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



### 半導体・部品テストシステム事業

#### <SoCテスト>（7月予想比 +130億円）

- 半導体の高性能化トレンドが継続しているが、米中対立の影響によりOSATの新規投資は調整
- 一方、スマートフォンプレーヤー間の競争がテスト需要を想定以上に喚起。また余剰テストの転用促進で、顧客のサプライチェーン再構築が加速
- 車載、産機、民生品では最終製品の需要の回復がみられ、テスト投資へ転じるタイミングを注視

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

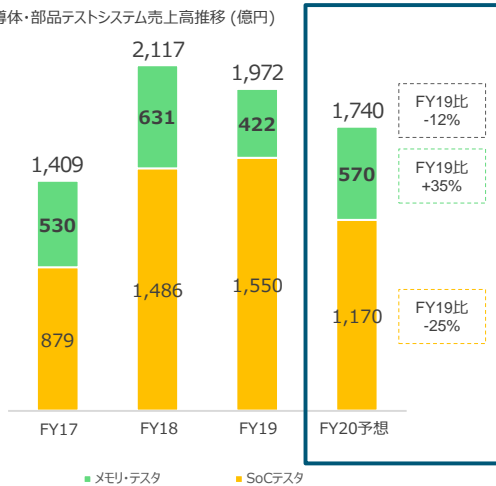
	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,402億円	+77%
メモリ・テスト	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,943億円	+70%

### ○ SoCテスト事業の今期見通し

- 米国の中国企業向け規制強化により、OSATの新規テスト投資は足元では弱い状況ではあるものの、スマートフォンプレーヤー間の競争がテスト需要を広範囲なアプリケーションで喚起する動きも見えています。
- OSATは業界内のサプライチェーン再構築に合わせ余剰テストの転用を進めており、当社もこれに協力しています。年内には調整は峠を越えると思っています。
- これらの動きを踏まえ、SoCテストの通期売上予想を、7月時点から130億円プラスした1,170億円とします。
- また、CY21に向けて、車載・産機・民生関連の最終需要には回復のきざしもみられます。需要拡大に備え、顧客のテスト投資本格化のタイミングを注視していきます。

## FY20見通し（事業別）

半導体・部品テストシステム売上高推移（億円）



### 半導体・部品テストシステム事業

#### <メモリ・テスト>（7月予想から変更なし）

–データセンターの投資に連動したサーバー用メモリ需要増を背景に、テスト需要が上期は堅調に推移

–従前の想定通り下期は売上減少を見込むも、CY21のDRAM微細化によるテスト強化、3D NANDの層数向上トレンドを背景に、下期の受注は堅調に推移する見通し

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

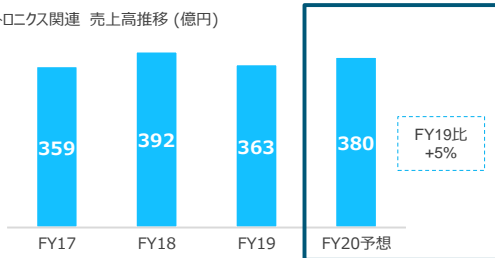
	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
SoCテスト	791億円	1,402億円	+77%
メモリ・テスト	353億円	541億円	+53%
合計	1,142億円	1,943億円	+70%

### ○ メモリ・テスト事業の今期見通し

- FY20上期はデータセンター投資が活況だったことにより、DRAMおよび3D NAND向けテストの販売が堅調でした。
- サーバー向けメモリ需要の一服から、テスト売上は上期偏重となる見込みです。
- しかしながら、ニューノーマルの定着で、データトラフィック量はますます拡大する見通しです。21年以降もメモリ需要の伸びが期待されます。
- DRAMの微細化、LPDDR5とDDR5へのシフト、HPC向けメモリ需要の拡大、3D NANDの容量増加などを受けて伸びていくメモリ・テスト需要を、全方的に取り込んでいきます。

## FY20見通し（事業別）

メカトロニクス関連 売上高推移（億円）



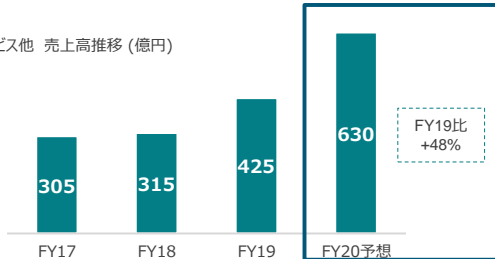
### メカトロニクス関連事業（7月予想から変更なし）

－インタフェース製品を中心に、前年度比やや増を見込む

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
メカトロニクス関連	309億円	378億円	+22%

サービス他 売上高推移（億円）



### サービス他事業（7月予想比 +20億円）

－システムレベル・テスト事業の顧客拡大努力が奏功、大幅増収を見込む

－フィールド・サービス事業も設置台数の増加で底堅く推移

【現中計における売上拡大への取り組み進捗（予想）】

	FY15-17 平均	FY18-20 平均	増減率
サービス他	300億円	457億円	+52%

### ○ メカトロニクス関連、サービス他事業の今期見通し

- ・メカトロニクス関連事業については、デバイス・インタフェース製品を中心に、今期380億円の売上高を予想します。
- ・サービス他事業については、フィールド・サービスでの底堅い売上と、システムレベル・テスト製品の売上増を予想します。そのためセグメントの売上高を630億円と、予想を20億円引き上げます。
- ・米Astronics社から譲り受けたシステムレベル・テスト事業と、米Essai社の、2つの買収事業の成長が米中対立によって落ち込んだSoCテストの売上減少を補う形です。



## サマリー

- コロナ禍においても、顧客の投資意欲は一定レベルを維持。2Qの計画超過と下期の見通しを総合し、通期の受注予想を200億円、売上予想を150億円、それぞれ上方修正
- 米国の対中制裁のもと、主力SoCテストへの影響は継続するも、新たなサプライチェーン構築が進展する中、当社の製品ポートフォリオの多様性が落ち込みをカバー
- 懸念された対中制裁の影響は年末までに峠を越え、車載の復調、5GやHPC市場の伸びなどがSoC関連の新たな需要を創出すると期待
- M&Aで強化してきたSLTビジネスが順調に推移、売上高の底上げに寄与
- 新たなテスト需要獲得のために研究開発投資と顧客サポート体制の強化を継続

### ○ サマリー

- コロナ禍、米中摩擦、世界経済マイナス成長と不透明感が強い中でも、顧客の投資意欲は大きく落ち込むことなく推移しました。計画を上回る2Q実績および下期見通しを総合し、通期の受注予想を200億円、売上予想を150億円引き上げました。
- SoCのテストサプライチェーンにおいて、米国の対中制裁の影響は大きいと言わざるを得ませんが、サプライチェーンの再構築が進展中です。当社の広い顧客基盤と、多様な製品ポートフォリオが、スマートフォン市場の変動によって生じた新たな需要を取り込み、中国スマートフォン大手関連のSoCテストの落ち込みをカバーしています。
- 米国の対中制裁の影響は年末には峠を越える見通しで、車載半導体等も回復基調にあります。世界経済に不透明感は残りますが、CY21は業況の改善を見込んでいます。
- ここ2年、M&Aで強化してきたシステムレベル・テスト事業は順調に推移しており、売上を下支えしています。
- 21年以降もSoC、メモリ双方でデバイスの進化が継続します。半導体の高性能化、信頼性強化がもたらすテスト需要獲得のために、研究開発投資と顧客サポート体制の強化を継続していきます。
- 最後になりますが、コロナ禍の中、生産体制を支えて下さったサプライヤーの皆様、慣れない環境の中でも着実に業務をこなしてくれた従業員に改めて感謝の意を表したいと思います。